

ご使用上の注意

吊上げ、
吊おろしの
注意事項



フックにしっかり掛かっている事を確認して下さい。



横びき厳禁、地面に擦らないように動かして下さい。



吊上げ、吊おろしは、ゆっくり慎重におこなってください。

排出時の
注意事項



フレコンの下には、絶対に入らないでください。



できる限り低い位置で排出し、発塵に注意して下さい。

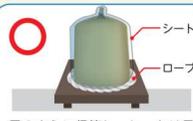


内容物を安全に排出し、残留物が無い事を確認して下さい。

保管時の
注意事項



水に濡れないようにして下さい。直接地面に置いて保管しないでください。



図のように保管し、シートは風に飛ばされないようロープ等で固定して下さい。

- ◆セメント系固化材は水や汗・涙等の水分と接触すると強いアルカリ性になり、皮膚、目、呼吸器等を刺激したり、粘膜に炎症を起こすことがあります。
- ◆目に入れないようにして下さい。万一入った場合は直ちによく洗浄し、専門医の診察を受けて下さい。
- ◆皮膚に付けないようにして下さい。また、鼻や口に入れないようにして下さい。
- ◆取り扱いの際には防塵メガネ、防塵マスク、ゴム手袋等を着用して下さい。
- ◆幼児や子供には触れさせないようにして下さい。
- ◆貯蔵に際しては、水分や湿気にご注意下さい。施工現場に貯蔵する場合は、パレット等の上に置き、地面に直接置かないようにして下さい。また、降雨の恐れがある場合や湿度が高い場合は、ビニールシート等で覆って下さい。
- ◆六価クロムに対して過敏な場合は、セメント系固化材を使用するとアレルギーを起こす場合がありますのでご注意ください。
- ◆セメント系固化材は、モルタル・コンクリートに用いてはいけません。用途範囲外に使用すると、結合水の不足による硬化不良や、未水和の固化材が降雨等により吸水し、膨張を起こす事があります。また、過剰な添加や混合不良の場合にも膨張を起こす可能性がありますのでご注意ください。
- ◆セメント系固化材の散布にあたっては、飛散に注意して下さい。市街地、精密機械工場や田畑等、飛散が問題となる可能性がある場合には、低い位置での排出、またはスラリーによる施工等をご検討下さい。なお、均一な散布や所定量を正確に散布することも、施工品質上重要となります。
- ◆セメント系固化材と対象土の混合は、改良の效果に大きな影響を与えますので留意が必要です。混合の場合は土質・施工機械などにより大きく左右されますので、現場条件に即した施工を行うようにして下さい。
- ◆セメント系固化材には極微量のクロム化合物が含まれており、これを用いた改良土からは、土質環境基準を超える六価クロムが溶出する場合があります。ご使用の際には、事前に溶出試験を行って溶出量を確認して下さい。
- ◆洗浄水などの排水は、アルカリ性である可能性があるため、水質汚泥防止法等の関連法令に適合するようにご注意ください。
- ◆フレコン(フレキシブルコンテナ)は重量物用容器であるため、安全管理に十分配慮して作業を行って下さい(上図参照)。



セメント系固化材
特殊土用
固化材

琉球 RKC-E



セメント系固化材

琉球RKC-E
特殊土用固化材

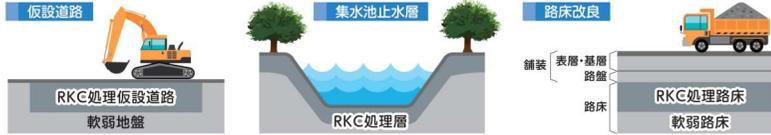
琉球RKC-Eとは

土の種類によって、セメントによる安定処理を施したときに、環境基準値を超えて六価クロムが溶出される特殊土と呼ばれるものがあります。琉球RKC-Eは、このような土壌に対応するために開発されたものであり、六価クロムの溶出を大幅に抑制することができます。

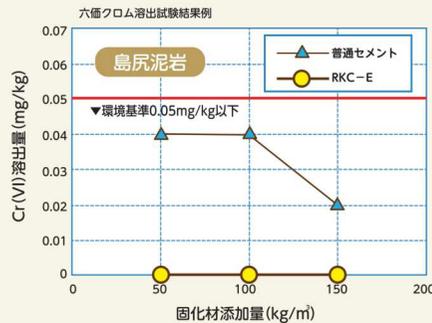
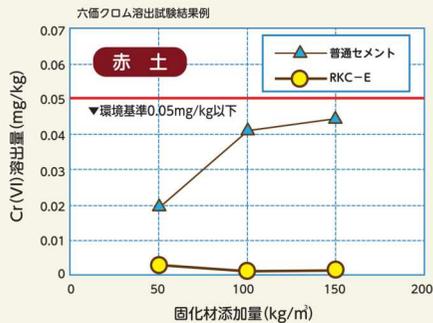
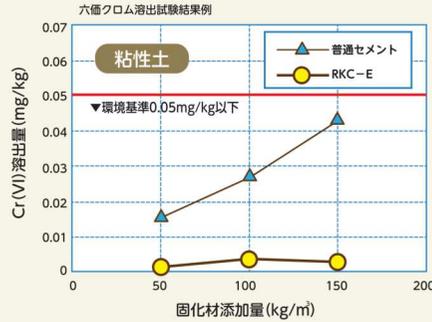
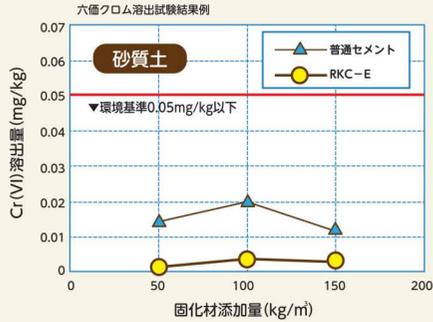
建築、土木を問わず、あらゆる工法に適用できます。また、土質の種類を選ばず、粘性土や砂質土、有機質土などでもすぐれた土質改良効果を発揮します。

- ・浅層改良 住宅の基礎、仮設道路
- ・深層改良 ・路盤、路床改良
- ・ヘドロ処理 ・その他

用途・適用

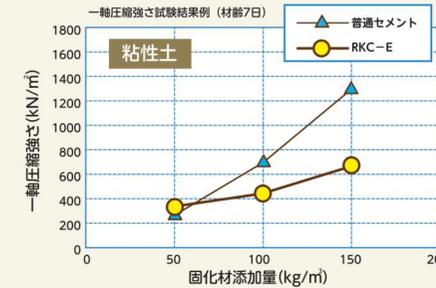
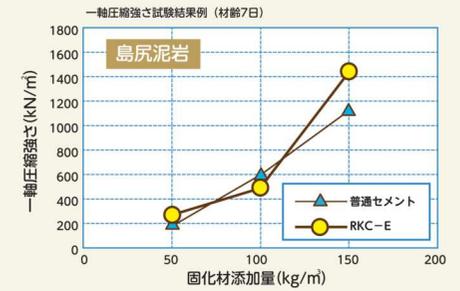
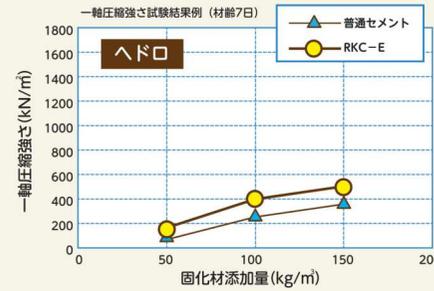
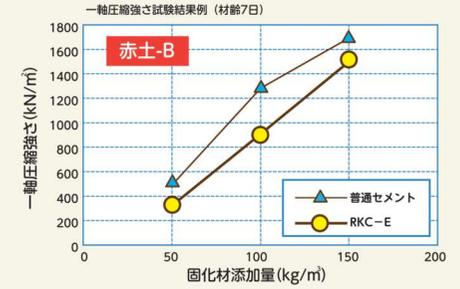
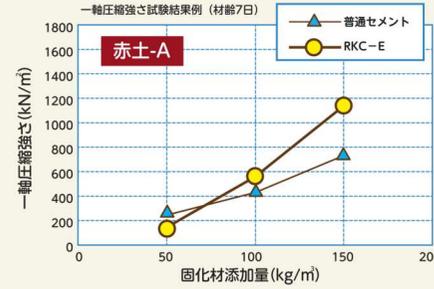


試験結果例 (改良土の溶出試験)



※上に示されている試験結果は、RKC-Eを使用して室内試験で得られた結果の一例であり、製品の性能を保証するものではありません。実際に使用されるときは、対象土を用いて強さ試験、溶出試験などを実施されることをお勧め致します。

試験結果例 (一軸圧縮強さ試験)



※上に示されている試験結果は、RKC-Eを使用して室内試験で得られた結果の一例であり、製品の性能を保証するものではありません。実際に使用されるときは、対象土を用いて強さ試験、溶出試験などを実施されることをお勧め致します。

室内試験と現場における圧縮強さ比の一例

固化材の混合方式	改良の対象	施工機械	(現場/室内)強さ比
粉体	軟弱土	スタビライザ バックホウ	0.5~0.8 0.3~0.7
	ヘドロ 高含水有機質土	クラムシェル バックホウ	0.2~0.5
スラリー	軟弱土	スタビライザ バックホウ	0.5~0.8 0.4~0.7
	ヘドロ 高含水有機質土	処理船 泥土上作業車 クラムシェル・バックホウ	0.5~0.8 0.3~0.7 0.3~0.6

※セメント系固化材による地盤改良マニュアル (セメント協会発行) から引用